

# 次世代物流のプラットフォーム作成と社会実装

## プロジェクトの背景

本プロジェクトの出発点は、瀬戸内の離島で顕在化する”届かない”日常課題です。人口減少・高齢化が進む一方で、物流は船便・航空便に強く依存し、天候やダイヤに左右されて高コスト・遅配・配送対象外が常態化。医薬品や生鮮、日用品の入手が不安定となり、暮らしの質と事業継続、若者の定住意欲を損ねています。港湾や滑走路の増設は費用・時間の面で現実的でないため、既存インフラに最小負担で導入できる気球型の中距離空輸に着目。産総研・NEDOの助言を受けつつ、現地ヒアリングと試作検証を重ね、離島でも”都市並みの当たり前”を取り戻す持続可能な物流基盤の構築を目指しています。

## 商品・サービス

本土-離島の中距離区間を小型飛行船(気球)で一括輸送し、島内拠点で仕分けして地元配送網に繋ぐ統合物流サービスです。港湾や滑走路の増設不要で低コスト・短期導入が可能。住民・事業者はアプリで集荷依頼と到着確認ができ、自治体は非常時の優先輸送枠を確保できます。都市並みのスピードと価格感で、離島の「届く確実性」を標準化します。

## ポイント

- ・ **気球×統合運行**  
小型飛行船(気球)で本土-離島を一括輸送し、島内拠点で仕分け→地元配送網へ。  
港湾や滑走路の増設不要で低コスト・短期導入。
- ・ **確実性と速度**  
時刻表便+緊急便、モジュール式貨物ポッド(常温/簡易冷蔵)、運航管制・追跡SaaSで”都市並みの当日~翌日感”と災害時の継続運用を両立。
- ・ **地域価値の最大化**  
EC送料・遅配・対象外の課題を解消し、住民利便性と事業継続性を向上。自治体は非常時の優先輸送枠を確保し、地域格差是正と活性化に寄与。

